

瀬戸内市立瀬戸内市民病院だより

# さんさん広場

## 第 122 号

《編集・発行》  
瀬戸内市民病院広報委員会  
瀬戸内市邑久町山田庄 845-1  
TEL (0869) 22-1234  
FAX (0869) 22-3296  
URL <http://www.city.setouchi.lg.jp>



《理念》 市民に安らぎと幸せを届ける病院を目指します。



迎春

「干支の寅（えとのとら）」 瀬戸内市内の工房で製作された今年の十二支の「寅」です。何とも愛らしいですね。「干支（えと）とは、年ごとの十干（じっかん）の「干」と十二支の組み合わせで呼称されるということです。今年の干支は「干」の「壬（みずのえ）」と十二支の「寅」が組み合わさった「壬寅」。「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長する」といった縁起のよい意味があるのだそうです。（経営企画室次長 馬場洋一）

## 目次

- 写真 「干支の寅（えとのとら）」 ……1
- 新春のご挨拶（病院事業管理者） ……2
- 新春のご挨拶（病院事業部長） ……2
- 新春のご挨拶（院長） ……3
- 新春のご挨拶（看護局長） ……3
- 「診療用放射線の利用に係る安全管理研修会」の講師を務めて ……4
- 漫筆「見たり・聞いたり・言ったり」(7) ……4
- 感染対策よもやま話 ……5
- 菊の展示に感謝状 ……5
- おうちでも作りたい病院の献立 ……6
- 接遇委員会発「6代目モデルナースに委嘱状」 ……6
- わたしたちはモデルナースです。どうぞよろしくお願ひします。 ……7
- 職員紹介コーナー『庭』 ……8
- 理念・基本方針 ……8
- 編集委員のちょっと一服~オリーブの木の下で~ ……8

# 新春のご挨拶

## 新春のごあいさつ

皆様新年おめでとうございます。未だに世界的な新型コロナウイルス感染症の流行が克服できないことを考えると、めでたさも半減という所かもしれません。更にオミクロン株という変異したウイルスが日本でも猛威を振るいそのような気配となりました。まずはこのような中で病院機能を麻痺させないように職員一同感染防御に努める所存でございますが、市民の方々も十分な予防策を採っていただきたいと思います。新型コロナウイルス感染症爆発となつて通常の診療機能に支障をきたす事態を大変危惧しています。重症化率が低そうだとの情報もあるようです。しかしいくら重症化率が



病院事業管理者 三河内 弘

低いといつても、感染者が多数になれば必ず重傷者、入院者が増えます。市民の方々には、ご自身や、ご家族を守るだけでなく、一般診療が出来なくなるような医療崩壊をきたさないためにも、可能な限りワクチン接種を受けていただきたいと思います。

当院は病院機能改善をはかる一助として日本医療機能評価機構の行う病院機能評価を受審しています。今年はこの機能評価更新のための受審年となっています。市民の皆様から信頼いただける病院を目指して第三者機関の評価を受けて、更なる改善に向けて努力いたしますのでよろしくお願いいたします。

今年が皆様方にとって良い年となりますよう願っています。

## 期待される一環を担う



病院事業部長 小山 洋一

新たなお気持ちで令和4年の新春をお迎えの皆様にご挨拶申し上げます。

当院にとって2年間に及ぶ新型コロナウイルスとの苦闘は、院内感染防止に始まり、診療、検査、入院治療、ワクチン接種へと続き、新年早々からはオミクロン株との闘いが想定されております。しかし、コロナ禍にあつてこそ更に地域中核病院としての医療機能価値が見直されてきたものと自負しています。即ち、全国中小の自治体病院など436医療機関が、国から地域医療構想において医療機能の集約化や統合など具体的対応方針の再検証対象病院とされていますが、通常の医療を維持しながら新型コロナウイルス対策に迅速に対応していること

で、その存在価値が改めて再認識されているところであります。

一方、「ステイホーム」、「ソーシャルディスタンス」という一定の行動制限など外出自粛により、私たちが暮らす瀬戸内市を見つめ直す機会ともなり、社会生活を送るうえで新たな気付きを得る機会となりました。

コロナ以外にも医療を取り巻く環境は、少子高齢化による人口減少問題とそれに係る地域医療構想及び医師確保の問題、医療従事者の働き方改革、早晚国から示されるであろう新たな公立病院改革プランへの取組みなど、克服すべき課題は山積しています。しかし、瀬戸内市や周辺地域の皆様が安心して暮らせる地域社会の構築を目指すとともに、期待される一環が担えるよう、努力して参る所存です。



# 新春のご挨拶



院長 竹内 龍三

## 「2022年新年の挨拶」

若こないやしつろ（Wakou Naiyasuro）、昨年の朝礼から版でも紹介いたしました。南鹿児島地方の正月に交わされる挨拶文句です。直訳は「若返られましたヨネ！」です。鹿児島では正月元旦の朝早く酌む「若水（お屠蘇）」は邪気を除き人の生命を若返らせる働きがあるとされ、年を1つ取る（1歳若返る）気持ちで、頑張りましょうという意味合いです。この2年間、新型コロナウイルス禍で病院業務は翻弄され、日常の医療にも支障をきたすことも

あり、患者さんたちに我慢していただくことも多々あつて、ややもすれば心折れやすい気持ちになつてきました。しかし、幸いなことに職員皆さんの感染意識の高まりもあり、この2年間で病院職員の感染者はなく、病院業務も変わりなく遂行して行くことができました。（新年を迎えるにあたって）この間の経験を活かし、今後も瀬戸内市民病院の理念「市民に安らぎと幸せを届ける病院」をモットーに、改めて職員一丸となつて若返つた気持ちで邪気を払いながら病院業務にあたつていきたいと思います！



## 「2022年は芽吹き之年」



看護局長 天野 芳子

新年あけましておめでとうございます。今年もコロナ禍で新年を迎えることになりました。昨年は感染防止と共にコロナワクチン接種に多くの時間を費やした1年間でした。日々の生活にマスクは欠かせないものとなり、自粛生活に疲れていたところ、岡山県のコロナ感染者0人となり、一部面会を再開できました。しかし、その喜びもつかの間、一ヶ月余りで再び面会が禁止となり、患者さんやご家族の方も落胆されたことと思えます。コロナワクチンに期待し一刻も早い収束を待ち望

んでいましたが、感染力においては最強のオミクロン株と戦う激動の新年となりました。

瀬戸内市のワクチン接種率（2回目）は80%近くとなり、治療薬（注射・内服）も開発され、コロナ収束への準備は整ってきていると思えます。これからも地域の皆様とともに、ウィズコロナの時代を乗り切っていきたいと思っております。

昨年（辛）の干支は「辛（かのと）丑（うし）」でした。痛みを伴う衰退と、新たな息吹が互いに増強し合う年とされ、堅実で強い精神力が試された年となりました。多くの物議を醸し開催された東京オリピック・パラリンピックでしたが、日本人選手活躍に、コロナ禍にあつて唯一の明るい話題となり、元気を頂いた方も多かつたと思えます。今年の干支は「壬（み

ずのえ）寅（とら）」に当たります。冬が厳しいほど春の芽吹きが生命力にあふれることを意味するそうです。まさにオミクロン株と戦う厳しい今（冬）を乗り切つたら、きっと希望にあふれる生活が待っているような気がします。

今年も病院の理念のもと、「人に優しく、思いやりのある看護が提供できる」ように、尽力していきたいと思

います。今年が皆様にとつて良き一年になるよう心から願っています。本年もよろしくお願いいたします。



## 「診療用放射線の利用に係る安全管理研修会」の講師を務めて

診療放射線科長（診療放射線技師）赤木耕平



12月7日（火）、令和3年度の瀬戸内市民病院診療用放射線の利用に係る安全管理研修会が実施され、講師として招聘された。研修対象は診療用放射線に関わる当院職員で、参加者は16名であった。

今回の研修会は、当院で扱っている放射線（X線）の性質について、基礎的なところを解説した。X線とは何かから始まり、X線がどこでどのようにして発生し、どの方向に進み、それがどのくらいの範囲に照射され、その後どうなるのか。つまりX線が（患者の）撮影する部位に当たった後で、どのくらいの範囲にまで影響を及ぼすのか

（散乱するの）について解説した。また放射線防護の3原則（距離・時間・遮蔽）や医療被ばくと職業被ばくの違いについても解説した。実際に使っている移動用のX線撮影装置を研修会場に持ち込み、胸部X線撮影をする場合を想定したデモンストラーションを行いつつ説明を進めた。この場合、職業被ばくを可能な限り少なくするポイントは、まずX線管球から発生する直接X線に当たらないこと。言い換えれば、照射野内に入らないこと。次に患者から発生される間接X線（散乱X線）に当たらないこと。つまり患者から距離を取ること。撮影時に介助などで、患者のそばにいない必要がある場合は、必ずプロテクターを着用すること。間接X線を発生させるもの（患者）から離れること（すなわち距離をと

ること）と、プロテクターを着用すること（すなわち遮蔽へいすること）とはほぼ同等の効果があり、（X線の照射時間にもよるが）一般的に2m以上距離を取ることができれば十分であると考えられている。今回は傘を使って、実際には見えない直接X線と間接X線（散乱X線）の動きを視覚的に表現することを試みたので、参加者の多くの記憶に残ったのではないだろうか。今回、診療用放射線の安全管理についてすべてを解説することは不可能であるため、今回伝えなかったこと30項目（確率的影響と確定的影響の違いや医療被ばくの最適化など）をQ&A方式で分かりやすく解説した資料を別途参加者に配布した。また、同月21日（火）、市内裳掛診療所でも同様の研修会が実施され講師として参加した。

### 漫筆 「見たり・聞いたり・言ったり（7）」

「学者は国の奴雁（どがん）なり」という言葉をご存じの方も多いことと思われます。これは2024年度上期で一万円札の肖像を渋沢栄一翁に交替する福沢諭吉翁の言葉です。奴雁とは雁の群れが一心に餌を啄（ついで）んでいるとき、一羽首を高く掲げて遠くを見渡し難にそなえる雁のことで、学者もまた「今世の有様に注意して（現状を冷静に分析し）、持って後日の得失を論ずる（将来にとって何が良いかを考える）」役割を担う、という意味です。この言葉に最初に触れたのは、政府が平成25年8月に発表した社会保障制度改革国民会議報告書に記載された前文「国民へのメッセージ」です。

年末を控え、少し落ち着きをみせている新型コロナウイルス感染症に思いを巡らせたときに、内閣が設置している

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議や同対策分科会、厚労省に設置されたアドバイザリー・ボードなどから発信された多くの知見・意見、正に「学者は国の奴雁」などと感心しています。一方、政治も政策や導くべき方向に関し、学者が述べる科学的根拠を示しながら国民に納得感のある説明を発信していったことで、「三密回避」「不織布マスクの着用」「手指消毒の徹底」など新しい生活様式と呼称される国民の行動変容につながっていったのかな、と思います。

徐々に広がりを見せているオミクロン株に対しても奴雁機能の発揮を強く願っています。

（経営企画室次長

馬場洋一）

## 感染対策よもやま話



最初に日本で新型コロナウイルス患者が確定されたのは2020年1月15日です。それから何度も流行を繰り返して、2022年1月はオミクロン株で感染者数が爆発的に増加し収束が見通せない状況です。もう新型コロナウイルスも3年目に突入し、いつ落ち着いた生活に戻るのかとうんざりします。さて、この新型コロナウイルス対策としてずっと推奨されていることが、手洗い、3つの密（密集、密接、密閉）をさける、マスク着用といった対策です。皆さんももうすでに習慣になつてきていると思います。昔から感染対策に手洗いや換気が重要なことは言われていました。手洗いの重要性を証明したのがイグナツ・ゼンメルウイルスという人で、病院内の衛

生、特に換気の重要性を強調したのがフローレンス・ナイチンゲールです。

今回は手洗いの重要性を証明したゼンメルウイルスについてお話したいと思います。余談ですが、ゼンメルウイルスと聞いて連想されるのは、有名なミュージカル映画「サウンド・オブ・ミュージック」で歌われている「エーデルワイス」ではないでしょうか。スイスの花エーデルワイスは、ドイツ語で「高貴な白」という意味で、花言葉は「大切な思い出」、後述する

「忍耐・勇氣」だそうです。

そのゼンメルウイルスは1818年生まれハンガリー出身の医師です。日本でいうと江戸時代後期です。ゼンメルウィスはウィーン総合病院で産褥熱の原因について調べていました。第1産科病棟と第2産科病棟では産褥熱の死亡率が違うことに気が付きました。第1産科病棟では13.1%、第2産科病棟では2.0%だったのです。第1産科病棟では医師が妊婦の診察を行い、第2産科病棟では助産婦が行っていました。

観察をしていると、医師は解剖をした手に病原体をつけたまま診察をしていることがわかりました。そこで、さらし粉（次亜塩素酸カルシウムを有効成分とする白色粉末）を溶かした液で手を洗うことを義務付けると第1産科病棟も第2産科病棟の感染率とほぼ同じになりました。1847年のことです。ゼンメルウイルスは手洗いの重要性を訴えましたが、当時の医学界は否定的でした。自分たちの職業は神聖であり、手が汚れていることはあり得ないといったもので

### 菊の展示に感謝状

した。ゼンメルウイルスの死後、手洗いや消毒が感染対策に必要なことが世の中に認められ、感染制御の父とも呼ばれ、ドイツでは切手にもなっています。やはり感染対策の基本は手洗いですね。そしてコロナ対策にはもう少し「耐える勇氣」が必要なようです。みんなで乗りこえましょう。

副看護局長（感染管理認定看護師）  
形山優子

病院玄関に、毎年10月から11月にかけて、見事な大輪の菊を飾っていただき、訪れる方々に、当院の理念である「安らぎと幸せ」をお届けしたということ、1月4日（火）当院応接室で病院長から感謝状が手渡されました。感謝状をお贈りしたのは市内在住の柴田泰之さんと蟻正通弘さんです。柴田さんは昨年まで4年連続、蟻正さんは2年連続で展示してくださっています。菊は「市の花」にも指定され、展示いただいた菊はとても色鮮やか、豪華絢爛といった3本仕立て、あるいは7本仕立てです。外来患者

さんはじめ多くの方がひととき足を止めて鑑賞され、お話されている姿は何とも微笑ましく感じました。（経営企画室次長 馬場洋一）



# おうちでも作りたい病院の献立

## 《 わか鶏のケチャップ和え 》

シンプル、簡単なのにおいしい、お弁当にも合うおすすめの1品です。

ケチャップとソースの割合がいいのでしょうか。皮付きの胸肉が合うように思います。

大きすぎず、小さすぎず、10g程度の大きさが食べやすく、コツは皮がカリッとするまでしっかり揚げること！

### (作り方)

1. 鶏肉に塩・胡椒をし、片栗粉をしっかりとまぶす。
2. 180度に熱した揚げ油に入れ、カリッときつね色になるまで揚げる。
3. 熱いうちにケチャップとソースをからめる。



### 材料 (1人分)

とり肉 10g×6  
 塩0.3g 胡椒少々  
 片栗粉5g  
 揚げ油 適量  
 ケチャップ10g  
 中濃ソース5g

(栄養科長 若松規子)

委員会では推薦基準として、スマイル+5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）の6S活動が推進できる3年以上の経験をもつ看護師の中から、外来及び各病棟1名ずつ、あわせて4名を毎年選出しています。

6代目モデルナースは今年1月から12月までの1年間、それぞれの職場において使命感をもって接遇の模範となるべく活動を続けて

接遇委員会は昨年12月、令和4年の6代目モデルナースを選出し、1月4日（火）11時から会議室において、委員長である加原健治内科医長から委嘱状とモデルナースワッペンが授与されました。このモデルナースは新人看護師や後輩看護師、実習生等にロールモデルとしての存在を示すことを主目的とした当院独自の「モデルナース制度」（平成28年10月1日から実施）によるものです。

### 接遇委員会発

## 6代目モデルナースに委嘱状

まいります。なにとぞ温かいご声援をお願いします。

### 【6代目モデルナース】

北病棟 高原伸枝 東病棟  
 本城千鶴 西病棟 吉延佳子  
 外来 吉國砂紀（※令和3年11月から）

（副委員長（経営企画室次長）

馬場洋一）



接遇委員会選考

# わたしたちは**モデルナース**です どうぞよろしくお願いします。

## 北病棟



北病棟は、一般急性期の疾患で必要な入院治療を受けていただくための病棟です。(50床)

高原伸枝 (たかはら のぶえ)

急な入院・処置にも急性期チームで協力し合い 患者さんへの適切な看護のみならず ご家族の思いに対しても寄り添います。

## 東病棟



東病棟は、急性期治療を終え在宅に至るまでの療養や、急性増悪の治療に対応するための地域包括ケア病棟です。(30床)

本城千鶴 (ほんじょう ちづる)

安心安全な入院生活を送っていただくためにも 患者さんに笑顔で寄り添い 専門職としての誇りをもって看護業務にあたります。

## 西病棟



西病棟は、寝たきり防止と家庭復帰を目的としたリハビリを集中的に行う回復期リハビリテーション病棟です。(30床)

吉延佳子 (よしのぶ よしこ)

早期自宅復帰ができますよう 笑顔と思いやりの心で 寄り添う看護を行ってまいります。

## 外来



外来部門は、内科・外科・眼科など14の診療科における日常診療の他、初期救急、夜間・休日の急患にも対応しています。

吉國砂紀 (よしくに さき)

患者さんの気持ちに寄り添えるように笑顔を絶やさず 日々学ばせていただいているという 感謝の気持ちをもって頑張ります。

職員紹介「庭」



看護師 なかにし あや彩 中西

北病棟看護師の中西彩です。瀬戸内市民病院へ就職し今年で3年目になります。

私の趣味を紹介します。冬にはスノーボードをしています。小さいころから親に教わりスキーをしていましたが大人になりスノーボードに変更し6年が経ちました。毎年冬になると、ボードをしにスキー場へ行くことが私の楽しみです。

特におすすめのスキー場は、広くて距離の長い兵庫県のハチ北高原です。高速道路を使用し2時間半くらいで到着します。

しかし、最近はコロナ禍でもありなかなか行くことができませんが、興味のある方は是非機会を捉えて行って下さい。

★★ 次号の「庭」★★

事務局事務員の丹鋏芹奈さんです。ご期待ください。

＜理念＞

市民に安らぎと幸せを届ける病院を目指します。

＜基本方針＞

1. 地域で必要とされる医療を安全・安心に提供します。
2. 人を大切にし、患者さまの尊厳と権利を尊重します。
3. 医療・介護・保健・福祉施設等と連携し、市民とともに地域包括医療・ケアを進めます。
4. 常に自己研鑽に励み、医療の質向上に努めます。
5. 市民に必要とされる医療人を育成します。
6. 健全な経営基盤を確立します。
7. 楽しく働き甲斐のある職場をつくりまします。

編集委員の

ちよっと一服



～オリーブの木の下で～

寒い日が続きますね。私は毎年この時期になると風邪を引くことが多く自己流の対策をとっています。とはいえ三日坊主になりやすいため簡単なことに限ります。例えば、体が冷えやすいので暖かい服装をする、料理や飲み物に生姜を入れる、のどが弱いのでのど飴をなめる、加湿器やマスクで乾燥を予防する、睡眠をとる、ストレスをためない、軽い運動で体力をつけるなどです。日によって心と体の状態は変わるため、無理なく続けられる方法で健康を保ちたいと思っています。簡単な風邪予防があればぜひ教えてください。(I)